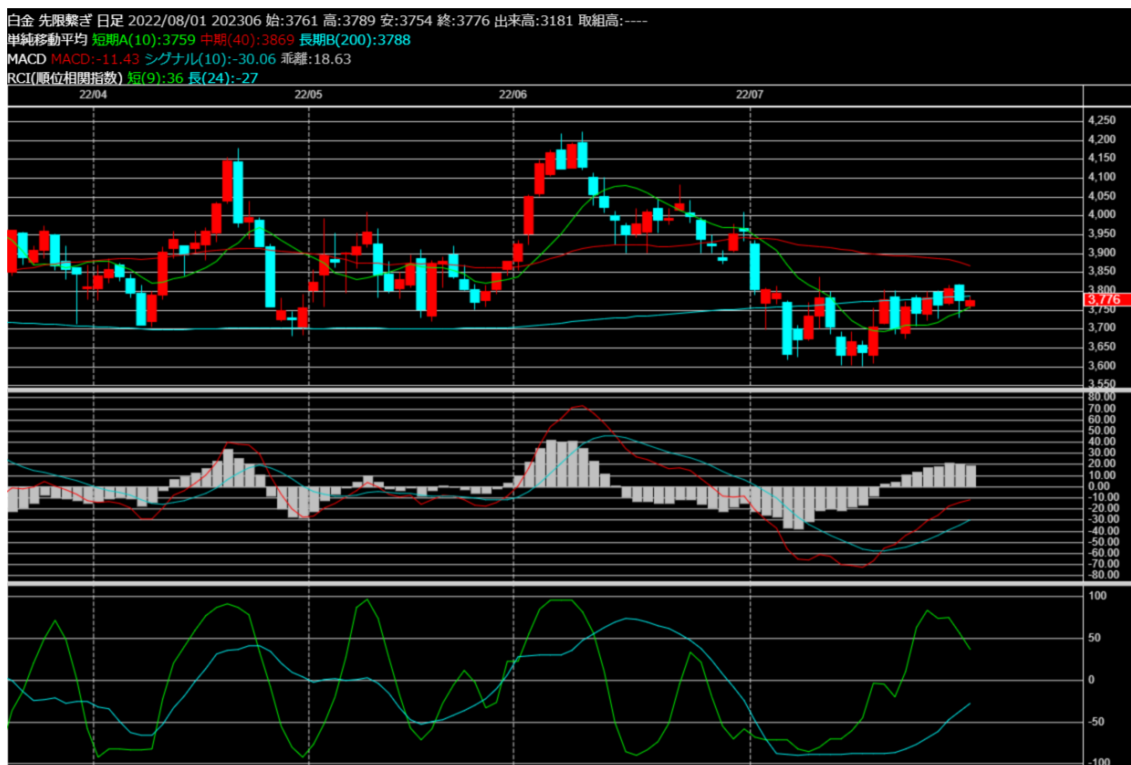


＜白金標準先物、目先の調整後に 3800 円の回復期待・・・＞



(出所：オアシス)

6月22日ユーロ圏消費者信頼感指数が-23.6となり、ドイツやユーロ圏の製造業PMIの低下や米国第1四半期GDP・確報値の-1.6%となるなど、インフレ高の悪影響が示されると7月にはFRBとECBは揃って利上げを実施している。ただ米国第2四半期GDP・速報値が-0.9%となり、景気減速の定義である2四半期連続のマイナス成長を示した事で、市場の関心はインフレからリセッションへ移行しており、過度な行き過ぎた利上げ観測が後退し、債券市場では長短債が買われて金利は低下、大幅なドル買いポジションは巻き戻しを示し、円高：ドル安の動きを強めている。特に白金標準先物は円安要因で一時3800円を回復したが、円高の動きに3727円まで下値を試している。

ただコメックスのプラチナ・オプションでは貴金属で唯一ネットショートが9.8%減少し26トンとなり、ナイメックスの指定倉庫のプラチナ在庫は8.1トンまで減少している。またNY白金の2021年の平均価格は1090ドルであり、2022年前半では平均価格が987ドルとなるなど、現在の890ドルが如何に安い水準を示している。そのため指定倉庫の在庫以上に空売りが膨らんでいるため、買い戻しの値動きに注意と思われる。

＜テクニカル＞

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDとシグナルが上昇を行ない、RCIでは短期が下げているが、長期は上昇している。そのため目先の調整には注意が必要であるが、日足が10日移動平均線の上昇に合わせて切り上げ続けており、3700円を下回る確率は低くなると予想される。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,547,000 円(2022 年 8 月 1 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 8 月 1 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>